

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4290100124
法人名	有限会社 トモメディカルサービス
事業所名	むつみの森 グループホームすみれ
所在地	長崎県長崎市長浦町2584 (電話) 095-886-3390
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年 8月22日

【情報提供票より】 (平成19年 8月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤15人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く) (おむつ代実費)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (7月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.7歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	友長医院・長崎市立琴海病院・小山歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療機関が設立したホームで、3階建ての2、3階部分に開設しており、1階は同法人経営のデイサービスたんぼぼになっている。
眺望良好な海沿いの住宅街の一角に位置しており、ホーム内からの見晴らしは、広々とした海が見渡せ、それだけで利用者や訪問者の心を和ませる雰囲気がある。
このホームの一番の特徴は職員が何事も利用者を優先されているところで、利用者の人格尊重にも繋がっている。
また、職員間の関係がとても良く、それがホーム全体の明るさとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回が設立後、第一回目の評価の為、該当しない
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者は、自己評価の意義や目的について全職員に伝えており、今後は、具体的に評価内容を一つひとつ点検しながらサービスに繋げていくことが必要である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	開設して間もない事もあり、運営推進会議は2回しか開催されていない。 会議では事業所からの報告が主である。これから開催される会議については、今回の外部評価の結果を基に、改善策の話し合いや、改善経過の報告等に加え、会議を活かし、より、サービスの向上を図って頂くことを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	職員全体で家族の意見、苦情が出しやすい雰囲気に心がけられており、その対応も苦情対策委員会を中心に素早く処理されている。また、行事をとおして家族会との交流も強い。7月より身体状況等、利用者の現況を個別的に、お便りとして家族宛に送付し、家族への配慮が何え、たいへん良い事をされていた。継続して頂きたい。その中で家族の不安の対応という点で、施設間の職員の異動については、利用者への影響を考慮し最小限にされることが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	管理者自ら地元出身であり、行事や災害時の訓練等、地域の方の協力体制が非常に良い。 施設自体も、積極的に大きな行事を催し、利用者、その家族、職員、地域の方、皆が楽しめるような努力を行っている。 その姿勢が、日常生活の地元の方との交流にも、良好な関係を齎している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着でなければ成立しない地域密着型サービスとして、地域との関係性を踏まえて考え作られた理念である。5つの柱を置いた独自の理念をつくっており、いずれも利用者優先ということを重視した内容である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念についてのお話はされているが、日々のサービスの中で、理念に基づいた具体的な実践を意識してされていない。	○	日頃から、ミーティング等で理念に触れる機会を多く持ち職員間で確認しあい、それを日々の介護に具体化して実践されることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、地域の行事（コンサート・夏祭り・もちつき等）にも可能な限り参加している。また、事業所内の上映設備を利用して開く映画鑑賞の会などを通して、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての自己評価及び外部評価ということもあり、管理者は外部評価の意義や目的については全職員に伝えているが、今回の自己評価については、ケアマネージャーと管理者のみで行われた。	○	次回からの自己評価については、職員全体で評価に取り組んで頂き、評価内容の一つ一つを点検していく過程の大切さ知り、それをサービスの質の向上に活かして頂きたい。

むつみの森グループホームすみれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所を開設してからの日が浅いということもあり、運営推進会議は年2回実施されていることを議事録で確認した。また、そのメンバーは行政・地域・利用者家族から構成されていた。会議内容については、行事報告や避難訓練の状況報告等である。	○	事業所の取り組みや改善点を地域の方に知って頂き、第三者よりの意見を得る、いい機会である運営推進会議をもっと活用され、サービスに結び付ける事が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に編入したばかりの地域ということで、現在のところ市町村との連携が難しい。	○	市町村と情報を共有し、協力を図っていくことが、今後の課題といえる。行政センターを活用し、運営推進会議ごとに呼びかけ、繋がりを深めるよう積極的な関りが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回の入居料通知に併せて、7月より身体状況など利用者の現況を個別的に、お便りとして家族宛に送付している。金銭の報告は所持可能な人はノートに記入し必ず家族に報告を行っている。	○	なじみの職員の異動については、その都度、家族に口頭でもよいので報告する配慮が必要と思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の申し出は、現在のところ利用者の家族から直接、来所時等に管理者に伝えられている。対応については苦情対策委員会を設け即時に対応を行っている。また家族会も設けられ、行事等の際に意見交換を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者全員の顔がわかるように、また馴染みになるようにという運営者の意向により職員の異動が行われている。	○	職員の異動による利用者や家族の不満や不安は必要以上に大きく、利用者の心のダメージに配慮する努力をするとともに、職員の異動は最小限に抑えるように努めてほしい。

むつみの森グループホームすみれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はなるべく多くの職員が所外研修に参加できるように配慮されているが、事務所から、研修地までかなりの距離があるという事情もあり現実的には研修に参加する機会が少ない状況である。	○	事業所内では介護計画の資料作りや実際の介護について若い職員と共に学んでいきたいということと、事業所外の研修にも積極的に参加していきたいという職員の熱意が感じられた。その為、年間の個別研修計画作成し、できる限りの調整により、研修参加の機会を多くされることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事務所の開設時には、同業者の施設を見せってもらう機会があり、その後は、連絡協議会で知り合った業者との交流を深め、研修や見学等を実施している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホーム内を見学して頂いたり、自宅を訪問する等、利用者本人が安心してサービスを利用できるよう心がけている。また入居後1ヶ月～3ヶ月の間は家族の訪問を度々してもらうよう家族にも協力依頼を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者と行動を共にして、日常生活を共に楽しみながら介護を行っている。利用者からは、日常の行動に対する節度や料理を学んでいる。	○	いつもは利用者とは和やかに歓談したり、楽しんだりしている職員も、忙しくなってくると一方的に日常の仕事をしがちになり、支援する側になっている場合があるとのことで、職員一人ひとりの意識付けが重要である。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの希望は直接職員に言ってもらい発言できにくい人は表情から察したり、家族から伝えてもらうので職員は敏感になって聴いている。 申し送りノートや職員会議も利用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、利用者本人の思いや家族の意見を反映するように努めているが、具体的な課題やケアについて積極的な意見交換がまだ不足している。	○	管理者は、家族、利用者本人を交え、ケアのためのカンファレンスができるようにしていきたいという希望をもっている。また地域で暮らすための個別の計画は立てていないということであり、今後ますます地域に根ざした施設の在り方が望まれる為、地域とのかかわりを組み入れた個別計画の作成を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは短期では3ヶ月、長期では1年、利用者によっては6ヶ月に一度行っている。また利用者の心身の状態の変化や状況の変化に応じて、主治医等を交えて意見を交換し、家族の意見、利用者本人の気持ちに応じた見直しをおこなうようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況や要望に応じて他の医療機関への通院や送迎など必要な支援については柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努めている。また、1階のディサービスと連携をとり行事等にも取り組んでいる。		

むつみの森グループホームすみれ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、協力医療機関をかかりつけ医とされている方が多く、連携がとれている。歯科、眼科についても同様である。送迎については家族の送迎が基本であるが個別に家族と話し合い協力して通院等支援がおこなわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、終末ケアを必要とされている方がおられ、協力医療機関からの看護師派遣もあり、家族とは早い段階で話し合いや意思確認書を交わしている。また、職員に対応についての研修をおこなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者への言葉かけは、食事やトイレ誘導時等、やさしく、丁寧であり、職員間でもミーティングを利用して意識向上を図られていた。 記録等の個人情報については、職員と誓約書を交わし、十分、配慮をおこなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での一日の流れは決めているが、その日の利用者個々の気分や健康状態で、散歩やドライブに連れ出したり、室内でゲームを楽しんだり柔軟な対応が成されている。		

むつみの森グループホームすみれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、海の見渡せる明るいいりビングで2つのテーブルに別れて和やかな雰囲気を利用者、職員共に楽しまれていた。利用者は準備や片付けにも、可能な限り自然に参加されている。日曜は利用者の好きなメニューと一緒に作る等、利用者の楽しみ事の一つになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者のその日の希望を聞いており、特に大浴場を楽しみにされている利用者が多く、週の半分はユニットバスではなく大浴場を利用できるように支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かして棚を作ってもらったり、花の世話、食事作り等、自然に楽しみながら役割ができるよう支援されている。また、月1回季節を感じるような行事を催したり、夏祭りの展示品作成等、自主的に参加できる場面づくりに工夫されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺は海の側で景色がよく、安全に散歩できるコースでもあり、利用者の希望を聞いて、天候等考慮したうえで、日常的に外出支援がよく成されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員については、見守りを徹底し、日中、鍵をかけないケアに取り組んでいる。しかし、ユニット入口の造りがリビングから見通しのきかない位置にあり、夜間についてはチャイムで対応せざるをえない状況である。		

むつみの森グループホームすみれ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが台所の近くに設置しており、内容は職員全員、周知徹底されている。避難訓練は年2回行われ、近隣には交番があり住宅街の為、災害時に地域の方の協力が得られるよう日頃から働きかけを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、栄養士の指導を受けたメニューを元に調理されており、その摂取状況は、食事、水分ともチェック表に記入をされており、職員間で情報共有がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング全体が、外の海が見渡せる様に大きな窓ガラスになっており、そこに居るだけで明るく心地よい。また、トイレ、浴室も清潔感があり、台所は対面式で利用者との対話ができるような造りになっている。壁には行事の写真や季節の飾りで和やかな雰囲気があった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族と相談の上で馴染みの家具や家族の写真、飾りの品等が持参されており、いずれの部屋も、利用者それぞれが安心して過ごせるように配慮されていた。		

※  は、重点項目。